



平成30年9月19日

海上保安庁

JICA 研修員が大分県別府港で海図作製のための測量実習をします
～アジア・オセアニア4ヶ国への国際貢献～

海図作製技術の習得を目的としてアジア・オセアニア4カ国から来日している6名のJICA((独)国際協力機構)研修員は、9月26日から10月26日にかけての約1カ月間、大分県別府港で測量を実習します。海図を作製するためには、水深だけでなく、海岸の形状や灯台の位置等、陸海のさまざまな情報を多様な測量手法によって明らかにする必要があります。この実習で研修員は、実際の測量現場を経験し、開講以来の約3ヶ月間に講義で教わった理論・技術の生かし方を、その身に体験します。

海図作製のための水路測量技術の習得のため、各国の関係機関の水路測量技術者からなるJICA研修員(4カ国6名)が、9月26日から10月26日にかけて、大分県別府港で実践形式の水路測量実習を行います。出身国の異なる研修員が、チームワークを大切に全員で力を合わせ、陸上・海上を問わず、海図作製に向けたさまざまな測量に取り組みます(別添1参照)。

また、実習期間中には、別府市長表敬訪問、大分海上保安部訪問や立命館アジア太平洋大学の学生との交流会も実施予定です。

○実習日程

平成30年9月26日(水)から10月26日(金) (うち実習日数27日)

【実習期間中の主な予定】

9/26(水) 14:45~15:00	大分海上保安部訪問
16:30~16:50	別府市長表敬訪問
9/29(土)~10/9(火)	陸上での測量実習
10/3(水) 10:45~13:00	立命館アジア太平洋大学訪問
10/12(金)~10/22(月)	海上での測量実習

※上記の予定は天候等により変更の可能性があります。

○今年度の研修員（4カ国6名）

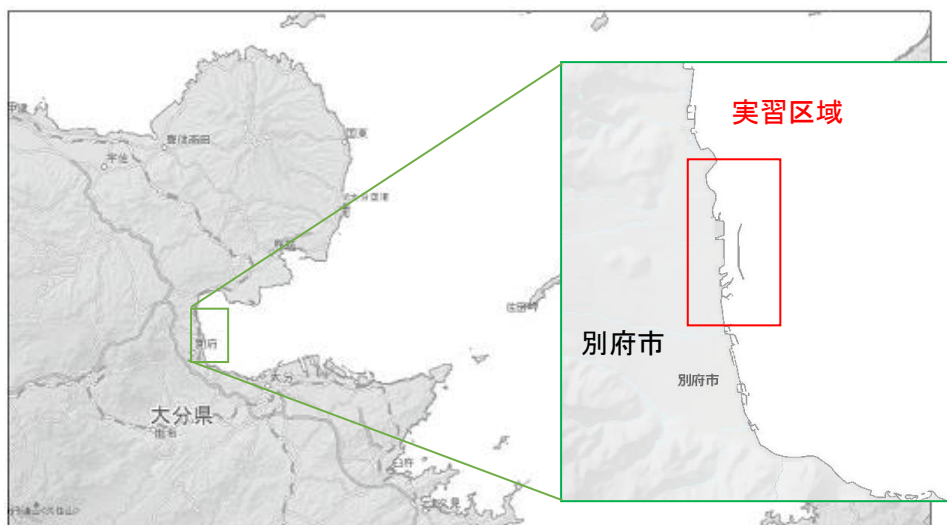
インドネシア3名、ミャンマー1名、パプアニューギニア1名、フィリピン1名

※研修全体の概要については、6月22日広報資料（別添2）を参照。

○取材申し込み

上記実習期間中の全日、取材いただくことが可能です。取材を希望される方は別紙申込書に必要事項を記載の上、申込書記載の宛先に送付をお願いします。

○実習場所（大分県別府港）



○過去の実習の様子



大分海上保安部訪問



別府市長表敬訪問



陸上の測量作業の様子



船舶での測量の準備



海上での測量作業の様子

陸上での測量

海図に掲載する海岸線や、航海上の針路目標となる灯台等の位置を明らかにします。

原点測量

基準となる点の位置(緯度経度・標高)をGPS等のGNSS(全球測位衛星システム)により測定します。この測量で決定された基準点の位置を基に、多角測量を行います。



多角測量

原点測量によって位置が明らかになった点を基準として、そこからの距離と角度を測定をすることにより、航海上の目標になりうる灯台等の位置を決定します。



岸線測量

海岸線やその付近の地物(岩や人工物等)の位置を測定します。本実習では、GNSSを用いた測位機器による測量も併せて行います。



海上での測量

海底の地形、海図に記載する水深を明らかにします。

測 深

船を使用して海域の水深を明らかにします。本実習では、GNSSを用いた船位測定と陸上から海上の船の位置を測定して測線への誘導を行い、船に取り付けた測深機により水深を測定します。



サイドスキャンソナー

船から観測機器を曳航し、海底の地形を明らかにします。沈没した船や岩礁など、まるで写真をとるような画像が取得できます。





問い合わせ先
 海上保安庁海洋情報部技術・国際課
 海洋情報渉外官 金田 謙太郎
 電話 03-3595-3605

平成30年6月22日
 海上保安庁

JICA 課題別研修(水路測量技術者養成の国際認定コース)開講について

～ 国際資格を取得できる唯一の JICA 研修 ～

海上保安庁では、平成30年6月24日～12月8日の間、独立行政法人国際協力機構(JICA)と協力し、開発途上国で水路測量に従事する技術者を対象とした海図作成能力向上のための研修を開催します。

本研修は、国際的な資格を取得できる唯一のJICA研修で、本研修を修了した研修員には、水路測量国際B級資格が付与されます。修了生の多くは世界各国の水路当局の幹部として活躍しています。

海上保安庁は、本研修を通じ開発途上国の海図作成能力を向上させることで、世界の航海安全に貢献しています。

1 日 程

平成 30 年 6 月 24 日 (日) ～12 月 8 日 (土) (詳細は別紙参照)

2 研修参加予定者 (4 カ国 6 名)

インドネシア 3 名、ミャンマー 1 名、パプアニューギニア 1 名、フィリピン 1 名

※ 本研修は、昭和 46 年から毎年実施しており、今年で 48 回目の開催となります。これまでに 44 ヶ国から 430 名の修了生を輩出し、開発途上国の能力向上に貢献しています。また、修了生の多くがタイ、フィリピン、マレーシアなど各国水路当局で要職を務めており、地域内・地域間の国際的な協力関係の強化にも大きな役割を果たしています (別紙参照)。

3 主なカリキュラム

- (1) 海図作成に必要な理論及び実務に関する講義 (測地学、潮汐、水深測量等)
- (2) 海図作成に必要なデータ収集のための港湾測量実習 (大分県別府港)
- (3) 海上保安庁測量船による洋上実習 (駿河湾) * 乗船取材可

4 取材申し込み

各種実習を含め、研修期間中随時取材を受け付けております。別紙のスケジュールをご参照いただき、取材を希望される場合は、下記までご連絡下さい。

海上保安庁海洋情報部技術・国際課国際業務室 電話：03-3595-3605

ファックス：03-3595-3627

(別紙)

○主な研修スケジュール (予定)

実施予定日	実施予定場所	内容
6月28日(木)	海上保安庁海洋情報部	カントリーレポート発表会
9月25日(火)～10月26日(金)	大分県別府港	港湾測量実習
11月19日(月)～20日(火)	駿河湾	測量船による洋上実習
12月7日(金)	JICA 東京国際センター	閉講式

※上記以外の期間は、主に海図作成に必要な理論及び実務に関する講義を予定しています。

【参考】

○水路測量国際B級資格

各国の教育機関が実施する水路測量技術者養成コースに対し、水路測量等の国際基準を定める国際委員会 (IBSC) により認定される資格で、国際A級、国際B級の2つに分かれます。

国際B級は、水路測量を全般にわたり実施可能な実務レベルの技術者の養成を目標としています。

(水路測量国際B級のコースは世界で26カ国30コースあります(平成30年5月時点)。)

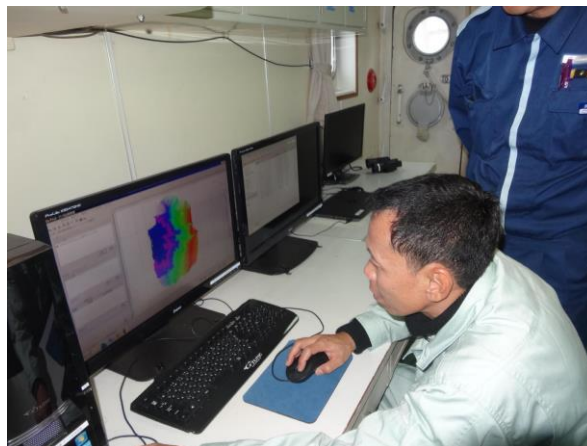
○本研修に参加した主な各国水路当局要職経験者

研修参加年	名前	役職
1972年	First Admiral Mohd Rasip bin Hassan	元マレーシア水路部長
1981年	Vice Admiral Supote Klangvichit	元タイ水路部長
1983年	Vice Admiral Charin Boonmoh	元タイ水路部長
1985年	Commodore Romeo I. Ho	元フィリピン水路部長
1987年	Rear Admiral Dato's Fadzilah Bin Mohd Salleh	元マレーシア水路部長
1990年	Mr. Efren P. Carandang	現フィリピン地図資源情報庁次長
1991年	Rear Admiral Zaa'im bin Hasan	元マレーシア水路部長
1992年	First Admiral Hanafiah bin Hassan	現マレーシア水路部長
1994年	Commodore Muhammad Arshad	元パキスタン水路部長
1998年	Mr. Justo Nicholas Lyamura	現タンザニア水路測量部長

○平成29年に実施した本研修の様子



測量中の船舶の誘導実習 (別府港)



洋上での測量データ管理実習 (測量船「海洋」)